

コマスポが選ぶ!

春の注目選手! Part1

東野にとってエースの真価が問われる1年が始まる。昨季は7試合に登板し、チームトップの3勝を挙げ、投手陣のエースとして活躍した。投球回は昨年春のリーグ戦と比べて減ったが、要所を締める投球で試合を作った。オープン戦では「多くの試合で自分の納得ができる投球ができた」と満足気に語った。打たれる場面もあったが「これもある意味良い経験になった」と前向きだ。

最終学年を迎える東野。後輩たちに「自分の投球を今のうちにしっかり見て盗んでほしい」と思いを語る。2部優勝、1部復帰を果たすためには、東野のリーグを通しての好投がカギを握っている。

東野龍二(商4) 投手

白銀滉大(法3) 投手



Ryuji Higashino

白銀の安定感ある投球が、今季の勝利には欠かせないだろう。

昨秋はけがから復帰し、リリーフでの活躍を見せたが、オープン戦では先発を任される場面も。最終的にはリリーフとしての出場が濃厚だが「打者を打ち取るカウントの稼ぎかたや、打ち取り方を考えてきた」と、その経験は決して無駄ではない。

アピールポイントは6つの変化球。ピンチで登板する場面も多いが「ここで自分自身が抑えないと駄目なんだと奮い立たせて投じている」と頼もしい一言。上級生となり求められるものが多くなるが、その期待を實力に変える力が今の白銀にはある。



Kota Shirogane



Issei Yonemitsu

主将として新生駒大野球部を牽引する米満。昨秋、10試合に出場し打率は2割前半と伸び悩んだが、シーズンを通して1番を担い、リードオフマンとして打撃だけでなく走力でも貢献した。

オープン戦終了後、米満は「良いところも悪いところもあったが、リーグ戦に向けて着実に進んでいる」とチームを評価。課題については「詰めてやっていくしかない」と残された時間はわずかだが、リーグ戦前の不安解消を目指す。

「今年は絶対悔いが残らない1年にしたい」と米満は語る。1部昇格にかける思いは誰よりも強い。春1部昇格、秋日本一を達成するために、チームを先導したい。

不動の4番へ——。巴山の一発が今季の行方を左右するといっても過言ではない。

最終戦では本塁打を放ったものの「若いカウントの時に、狙い球をとらえて長打にすることができなかった」と満足のいく結果ではなかった昨秋。オープン戦では追い込まれてからのバッティングを研究し、打席の中で相手投手を見る余裕が生まれた。

巴山は静かな男だ。そんな巴山の声や、選手を鼓舞する声が球場に響くのが聞こえるだろうか? チームの雰囲気明るくなるとともに、巴山の姿も徐々に変わりつつある。今季も巴山から目が離せない。



Sotaro Hayama

コマスポが選ぶ!

春の注目選手! Part2

米満一聖(市4) 外野手

巴山颯太郎(法3) 内野手